

2020 年度

国 語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 問題冊子および解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

| | |
|------------------|--|
| 受 験 番 号 | |
|------------------|--|

*解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 七五三のおミヤ参り。
- ② 正方形のメンセキを求めろ。
- ③ アバれる動物をつかまえる。
- ④ 発表会でドクシヨウする。
- ⑤ 将来へのテンボウがひらける。
- ⑥ 税金をオサめる。

問二 次の漢字の部首を書き、その部首名をひらがなで答えなさい。

照

問三 次のの中から意味が似ていることばを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 長所
- イ 美点
- ウ 最善
- エ 得点
- オ 努力

問四 次の□に同じ漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

右□左□

問五 次の□に生き物の名前をひらがなで入れて、文章を完成させなさい。

彼は□が合う親友である。

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

追いかけて——ミヒロ

家のまえでリサを見たときは驚いた。

まさか、おじいちゃんの知り合いがリサだったなんて。

通りがかっただけだと言うリサを、なんとか引きとめて家の中に入れた。

おじいちゃんを、ガツカリさせたくなかったし、苦手なものを克服するという宿題のことも、頭にあった。

① 少しでもリサとの距離を縮めたいと思った。ところが、アイスを食べながら話しているうちに、リサの態度が変わった。

不機嫌そうに、だまりこんでしまった。

わたしが、なにか気に

A

ことを言ったのかもしれない。だけど、きいても話したくないと言うだけで、もう帰ると言う。

なにがなんだかわからないうちに、リサは

1

帰りじたくをして、ガラス戸をあけてでていった。わたしのまえから、

リサのすがたがどんどん遠ざかっていく。

トクトクと心臓が音をたてた。同時に、腹だたしい気持ちがあがってきた。

なによ。気に入らないことがあるなら、そう言えばいいじゃない。いきなり帰るなんて、あんまりじゃないの。

でも、このままじゃ、リサとの距離は広がるばかりだ。どうしよう……追いかけようか。そして、もう一度リサと話をしようか。

くやしけれど、② そうしないと後悔しそうだ。

いそいで玄関にまわり、くつをはいて外にでた。だけど、通りにでても、リサのすがたはもうどこにも見当たらなかった。

通りは、右に行けば商店街のほうへと続き、左に行けば住宅街の先に公園がある。

まっすぐ家に帰ったのなら、リサの家がどこだか知らないから、さがしようがない。

迷っているうち、ふと、リサとおじいちゃん、公園で会ったという話を思いだした。

そうだ、もしかしたら公園に行ったのかもしれない。すぐに、公園めざして走りだした。

午後の強烈な日射しに、目が **B** そうだった。公園に入るちよつと手まえで、リサの姿をとらえた。

そのまま一気に距離を縮めようとしたけど、途中で息が切れた。あと一歩というところで、立ちどまってしまった。

足音に気がついたのか、リサがふり返った。

目をまんまるに見開いて、わたしを見つめている。わたしは、その目をにらみつけた。③

「本間さんって」

しゃべろうとするけど、息が **C** で言葉が続かない。何度か大きく深呼吸して、息を整えた。

「自分勝手すぎるよ！」

かすれていたけど、思いがけず語気が強くなった。

「わたしと話をしたくないからって、 **2** 帰るなんて、残された人の気持ち、考えたら！」

リサは、だまって視線を落とした。

なにかに耐えるように、くちびるをかんでいる。

「わたしが、本間さんのお父さんや家族のことを、言ったりきいたりしたから？ でも、仲良くなろうと思ったら、相手のこと知りたくなるんじゃない？」

え？ とリサが顔をあげた。

「仲良くって……わたしと？」

「もちろんそうよ」

「どうして？」

「どうして……」

④

に、本間さんの名前を書いたから。そう言ったら、またリサを怒らせてしまうだろうか。

「それは、えっと、わたし、本間さんみたいにセンスよくないし、スマートでもないし、水泳だって去年から六級のままだし、でも、本間さんはわたしにないものをいっぱいもってて、おしやれで、水泳も得意で、先生に当てられても、すらすら答えられるし、だからえっと、もう少し仲良くなれたらなああって思ってる……」

うん、これはうそじゃない。わたしのほんとの気持ちだ。

必死でしゃべったのに、リサはなんにも言わない。 3 顔をあげると、リサは遠くを見て、なにかを考えているみたいだった。

だまっている^Xと気づまりになって、どちらからともなく、公園の中へと歩きだした。

白い小さな花をつけた、背の高い木の下まで来ると、リサは立ちどまって木を見あげた。

「わたしと仲良くなりたい人がいるなんて、思ってもみなかった」

「うそじゃないよ」

「うん、わかった」

つぶやくように言って、リサは 4 わたしのほうをふり向いた。

「わたしの足の傷あとは知ってるよね。まえの学校で、あれが原因でいじめられて、わたし、不登校になってたんだ」
木にもたれかかって、ポツリ、ポツリと話した。

「わたしの不登校をめぐって、パパとママの意見はまっぴたつにわかれて、いつも夜おそくまで言い争いしてた。そのうち二人の仲までおかしくなってきた、とうとうパパはうちをでていっちゃった。わたしの不登校が、パパとママを別居させてしまったのよ。どう？ これで、うちは椎名^{ししな}さんが思ってるような、ステキな家庭じゃないってことも、わたしが話したくないわけもわかったでしょ」

「でも、わたしを車に乗せてくれた日は……」

「あの日は、月に一度、パパと食事をする日だったの」

リサは肩^{かた}をすくめて目をふせた。

「そうだったの。ごめん、わたし……なんにも知らなくて、ひどいこと言って」
「わたしも、わかってくれる人なんかいないって、思いこんでたから……。それに、椎名さんち、お父さんいないって言ったのにごめん」

「ううん、いじめって……どんな目にあったの？」

「この傷あとが……」

リサが、はいていたレギンスをちよつとたくしあげた。まだら模様の傷あとが目に入った。

「気持ちわるいって……」

記憶きおくがよみがえったのか、^⑤リサはギユツとくちびるをかんだ。

ズキンと胸が

D

だ。このまま、リサを帰しちやいけな気がした。

「そうだ！ いいこと考えた。ね、もう一度、おじいちゃんのところにもどろうよ」

「え、今から？」

「うん、だまっていなくなったから、今ごろ心配してさがしてるかもしれないよ。ねっ、行こう」

わたしは、リサの手をとって大きくふった。

しかたなさそうに、リサもうなずいて、それからかすかにくちびるをゆるめた。

ハーブティー——リサ

ミヒロに引っぱられるように、おじいさんのうちにもどった。

おじいさんたちは、相変わらずむずかしい顔をして、将棋盤しょうぎばんをにらみつけていた。

よけいな心配させなくてよかったと、ほっとした。

ミヒロは、ちよつと待っててと言ひ残して、庭にでていった。

なにをしているんだろうと、のびあがって見ると、なにかを摘んでいるみたいだった。

ときどき立ちあがって、Tシャツのそででおこの汗をぬぐうと、また草の中にしゃがみこんでいる。

しばらくすると、小さな葉っぱをつけた草を、いっぱいかかえてもどってきた。

水を流しながら、茎から葉っぱを切り取ると、ていねいに洗いだした。

「ねえ、その葉っぱ、どうするの？」

「ハーブティーをつくるの。あ、茶だんすの中にある、ガラスのティーポットをだしてくれる？」

これかなと、まるい形をしたガラス製のポットを取りだすと、ミヒロは、紙タオルで水気をとった葉っぱを、パンパンと両手でたたいて、その中に入れた。

そのあいだにも、火にかけたやかんが、シュンシュンと湯気をたてている。

ミヒロはそのやかんの湯を、ガラスポットの中に静かに注いでいった。

するとたちまち、レモンのようなさわやかな香りがひろがった。

「ふたをして、このまましばらく蒸らすの」

三分ほどたったころ、そろそろいいかなと、ミヒロは用意した二つのティーカップに、うすい緑色がかった透明な液体を、ゆつくりと注いでいった。

「これに、はちみつを入れると、飲みやすくなるんだ」

慣れた手つきで、ミヒロは小さじで二杯ずつはちみつを入れて、わたしにカップをさしだした。

「さっきの草、レモンバームっていうの。リラククス効果があるんだよ」

そつと顔を近づけると、レモンの香りが鼻にぬけた。スプーンでかきまぜて飲んでみると、酸味はほとんどなくて、スツキリとした味わいだった。

「おじいちゃんに教えてもらったの。気持ちを落ちつかせてくれるんだって。あと、よく眠れるようになるって」
ミヒロは、カップにふうつと息をふきかけて、ゆつくりと口にふくんでいる。

そうか。わたしにこのハーブティーを飲ませたくて、もう一度もどろうと言ったのか。心の傷を、なおしてくれようとしたのか。

わたしと仲良くなりたかったっていうのは、本当だったのか。今まで、そんなこと言われたことなく、信じられないような気がしたけど。

そういえば、あの傷あとを見たあとも、ミヒロは態度を変えなかったな。

ハーブティーのせいだけじゃなく、胸の中のかたいしこりが、ほんの少しとけたような気がした。

「これ、冷やしてもけつこうイケるんだ。葉っぱはいくらでもあるから、少し持って帰ったら？ いれ方は簡単でしょ」

ミヒロはそう言って、ね、とわたしに笑いかけた。ほっぺたに、ポコッとえくぼができて、思わずつりこまれそうになる。

わたしは、なんと答えていいかわからなくて、ぎこちなくうなずいた。

「なんかいい香りがすると思ったら」

吉岡くんが、^{よしお}フンフンと鼻をならして台所にやってきた。

「吉岡くんも飲む？ ハーブティー」

「うーん、どっちかというところ、おれはサイダーのほうがいいな」

「じゃあ、自分で買ってらっしゃい」

「ちえ、じゃあハーブティーでいいや」

「でいいやってことはないでしょ」

「はい。ハーブティーをおねがいます」

「しかたない。一杯五十円でいれてあげるよ」

ミヒロがそう言うと、吉岡くんはおおげさにのけぞった。

思わず笑ってしまった。

「じょーだん」

三人の笑い声が、せまい台所にあふれた。

ハーブティーも、ミヒロの笑顔^{えがら}も、吉岡くんの笑い声も、わたしの胸^{むね}にじんわりとしみこんでいった。^⑦

(朝比奈蓉子『わたしの苦手なあの子』(ポプラ社)より)

問一

1

4

に入ることはの組み合わせとして適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、1むぞうさに

2とつぜん

3へいぜんと

4さつさと

イ、1とつぜん

2さつさと

3わざと

4くるつと

ウ、1そそくさと

2むぞうさに

3さつさと

4ゆつくりと

エ、1さつさと

2だまって

3おそるおそる

4ゆつくりと

問二

A

D

をふくむ〓線部がそれぞれ次の意味になるように動詞を考え、その動詞を〓に入る

形に直し、適切なひらがな三字で答えなさい。

A 不快に感じる

B まばゆさで周囲が見えなくなりそうだった

C 激しい息づかいになって

D つらいと思った

問三 〰〰線部X・Yの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

X「気づまり」

ア、きゆうくつに感じるようす

イ、悪い結果が予想され重苦しいようす

ウ、心配で落ちついていられないようす

エ、ぼんやりして気がのらないようす

Y「ぎこちなく」

ア、遠慮えんりよするようす

イ、仕方なく

ウ、不自然ふぜんぜんに

エ、堅苦かたしく

問四 〰線部①「不機嫌ふきげんそうに、だまりこんでしまった」とあるが、リサがこのような態度をとった理由として適切なものを

次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、家族の話をして、ミヒロには自分のつらさが理解できないと考えたから。

2、ふれられなくなかった家族のことをミヒロに聞かれ、嫌いやな気持ちにさせられたから。

3、通りがかったただけなのに家族の話で無理に引きとめられ、腹が立ったから。

4、家族の話を聞くなど、急に仲良くしようとするミヒロに不信感をいだいたから。

問五

——線部②「そうしないと後悔しそうだ」とあるが、その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、リサの失礼な態度に腹が立ち、注意をしないと気が済まないと思ったから。
- 2、リサと話をすることができれば、リサに良いアドバイスができると思ったから。
- 3、リサと話をすることをあきらめたら、おじいちゃんに怒られると思ったから。
- 4、リサとこのまま話をしないと、いつまでもリサとの距離は縮まらないと思ったから。

問六

——線部③「わたしは、その目をにらみつけた」とあるが、このときのミヒロのようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、リサに嫌きらわれたのではないか、という不安を必死に隠かくそうとしている。
- 2、このままではリサとの距離が縮あせまらない、と焦りを感じている。
- 3、自分を無視して帰ったリサに対し、責めるような思いをいだいている。
- 4、仲良くしたいのは自分だけだったことに気づき、悲しみをぶつけている。

問七

④
この部分に入る語句を文中のことばを用いて十五字以内で答えなさい。

問八

——線部⑤「リサはギュッとくちびるをかんだ」とあるが、このときのリサのようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、いじめられた過去を思い出し、その時に感じたくやしさを悲しみをこらえている。
- 2、思い出したくなかった過去を聞き出そうとするミヒロに対し、いきどおりを感じている。
- 3、過去の苦しみを話しても、ミヒロは自分の気持ちを理解してくれないだろうとなげいている。
- 4、つらい過去ものりこえていかなければならないと、勇気をふるいおこそうとしている。

問九

——線部⑥「カップをさしだした」とあるが、その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分の好きなハーブティーを飲ませ、リサと友達になるきっかけを作ろうとしたから。
- 2、ハーブティーを飲ませて、帰ろうとするリサを引きとめたいと思ったから。
- 3、リサにハーブティーを飲ませて、心の傷をなおそうとしたから。
- 4、リサにひどいことを言ったおわびに、ハーブティーを飲ませたかったから。

問十

——線部⑦「わたしの胸にじんわりとしみこんでいった」とあるが、このときのリサのようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、ミヒロの態度や吉岡くんの行動から、二人が自分に好意を持っていることに気づき、照れくさく思っている。
- 2、ミヒロの優しさや吉岡くんの明るさに救われ、これまで抱えてきた心の傷が癒えていくように感じている。
- 3、ミヒロや吉岡くと過ごす時間がかけがえのないものとなり、もっと仲良くなりたいと心を開き始めている。
- 4、ミヒロや吉岡くと接する中で自然に微笑むことができるようになり、二人に感謝の思いをいただいている。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

草原より森林の方が暮らしやすい

チンパンジーは森林に住んでいて、葉や昆虫や小動物も食べるが、主な食物は果実である。たまに草原に出てくることもあるが、森林からあまり離れることはしない。森林から離れると肉食獣に襲われるかもしれないし、夜は森林に帰って樹上のベッドで寝るからだ。

注1

ボノボも森林に住んでいて、葉は食べるが、昆虫や小動物はあまり食べない。主な食物はやはり果実である。

①

。そのため果実は、動物にとって食べやすくできている。一方、葉や樹皮や根は動物に食べられては困るので、セルロースなどの硬い繊維が多くて、食べにくくなっている。

ゴリラも森林に住んでいて、果実を好んで食べる。しかし、果実よりもたくさんある葉や樹皮や根もよく食べるため、食物に困らなくなり、体も大きくなれたと考えられる。チンパンジーやボノボに比べて頑丈な顎や長い腸をもっていることも、繊維質の食物を食べるのに役立つているのだろう。

1

ゴリラの食性には地域差があり、ニシローランドゴリラやヒガシローランドゴリラは、チンパンジー以上に果実を食べるようだ。

②

注2

注3

一方、初期の人類は、森林も活動範囲に入っていたようだが、基本的には疎林に住み、草原にも足を延ばしていた。森林に比べれば、草原や疎林のような開けた場所は、食物が少なく、捕食者も多くて危険なところだ。類人猿のように森林に住んでいた方が、生きていくのに楽だっただろう。なぜ私たちの祖先は、そんな不便なところに住むようになったのだろうか。

A

現在の日本でも、クマが山から人里へ下りてくることがある。でもそれは、クマが希望にあふれて、人里で美味しいものをたくさん食べようと思って、下りてきたわけではない。きっと山の食料が少なくなり、空腹でたまらなくなったのだ。それで仕方

なく人里まで下りてきたのだ。ふつう動物は、食べるものがたくさんあって住みやすい場所があれば、その場所を捨てたりしない。いつまでも、そこにいようとすることは、^③そこいられなくなった理由があるのだ。

^④初期の人類が直立二足歩行を始めたときも、同じような状況だったかもしれない。そのころのアフリカは、乾燥化が進んで森林が減少していた時代だった。類人猿の中にも、木登りが上手い個体と下手な個体がいだろう。エサがたくさんあれば、少しぐらい木登りが下手でも困らない。木登りが上手い個体がエサを食べてしまうので、木登りが下手な個体は腹が空いて仕方がない。そうになると、木登りが下手な個体は、森林から出ていくしかない。²、疎林や草原に追い出された個体のほとんどは、死んでしまったことだろう。でも、その中で、なんとか生き残ったものがいた。それが人類だ。

草原で肉食獣に襲われたら逃げ場がない。でも疎林なら、なんとか木のあるところまで逃げられれば、木に登って助かるかもしれない。森林を追い出された人類は、生き延びるために疎林を中心とした生活を始めたと考えられる。

B

ところで、現生の霊長類の中には、森林ではなく開けた環境に住んでいるものもある。それらの生き方を調べれば、初期人類の生き方を推測する参考になるかもしれない。

現在、草原や疎林に住む霊長類（サルや類人猿やヒトの仲間）としては、^{注4}ヒヒがいる。ヒヒはアフリカのサハラ砂漠より南に広く住んでおり、大型類人猿の次に大きな霊長類である。ヒヒは雑食性で、地上に落ちているものをつまみ上げて、いろいろなものを食べる。草、花、種子、根、果実の他に、昆虫や小動物も食べる。おそらく初期の人類も、ヒヒと同じようなものを食べていたのだろう。果実を好んだかもしれないが、雑食性だったと考えられる。

疎林や草原では木がまばらなので、地上に下りずに、樹上だけを伝って移動することができない。^⑤ほとんどは地上に降りて、移動しなければならぬ。このとき、ヒヒは四足歩行で移動するが、人類は直立二足歩行で移動した。この違いは、どこから来たのだろうか。

ヒヒは5種（ヒヒ属ではないゲラダヒヒも入れると6種）ほどいるが、すべて一夫多妻か多夫多妻の社会を作る。一方、初期の人類は、あとで述べるように一夫一婦的な社会を作っていた可能性が高い。となれば、初期の人類のオスは、子育てに協力していたのではないだろうか。メスや子に食物を手で持つて運ぶために、直立二足歩行をしたのではないだろうか。現生のボノボも二足歩行をしながら、食物を手で持つて歩くことがあるので、初期の人類が食物を持つて歩いても、不自然ではないだろう。

「オスが、メスや子のために食物を手で運ぶために、直立二足歩行を始めた」という仮説を、食料運搬仮説と呼ぶことにしよう。この食料運搬仮説は、一応スジが通っている。でも仮説というものは、スジが通っているだけではダメなのだ。

池袋にいる友人が、渋谷にいるあなたを訪ねてきたとしよう。あなたは心の中で、こう考えた。

「彼はきつと、山手線に乗ってきたに違いない。だって池袋から渋谷まで、乗り換えなしで来ることができるから」

「彼は山手線で池袋から渋谷に来た」という仮説はスジが通っている。不自然なところは何も無い。

- 1 「彼は副都心線で池袋から渋谷に来た」というのも、やはりスジの通った仮説である。
- 2 でも、この仮説を正しいと決めつけることはできない。
- 3 たとえば彼は、副都心線を使っても、池袋から渋谷まで乗り換えなしで来ることができる。
- 4 なぜなら、他にもスジの通った仮説があるからだ。

スジの通った仮説は、1つとは限らないのである。

スジの通った複数の仮説を1つに絞り込むには、証拠が必要だ。彼が交通系ICカードを使っているなら、その履歴表示を見せてもらえば証拠になる。証拠があれば、彼が山手線で来たのか、副都心線で来たのかを、

3

、証拠がないときはどうすればよいだろう（彼に直接聞くという選択肢はないものとしよう）。そういうときは、

Y

することができるのだ。

彼が山手線で来たのか、副都心線で来たのかを、判断する助けになる間接的な情報を探すしかない。たとえば、あなたが、彼がお金に困っていることを思い出したとしよう。それなら彼は、運賃が安い山手線で来た可能性が高い。もちろんそれでも、彼が副都心線で来た可能性は捨てきれないけれど、あなたが知っているすべての情報から総合的に考えれば、「彼は山手線で池袋から渋谷に来た」という仮説を選ぶことが、ベストの選択肢ということになる。

進化する場合としない場合

4、人類が直立二足歩行を進化させた理由として、食料運搬仮説はスジが通っている。でも、はっきりした証拠はない。しかし、食料運搬仮説が正しそうだ、という間接的な情報なら、ないことはない。それが、犬歯が小さくなっていることだ。ここで犬歯の話とつながる。

生物の形態や性質など、すべての特徴をひっくるめて形質という。ある個体に2つの条件を満たす形質が現れたとしよう。2つの条件とは、「生存や繁殖に有利なこと」と「子に遺伝すること」だ。この形質をもつ個体は、他の個体より「生存や繁殖に有利」なので、他の個体より多くの子を残すことになる。この形質は「子に遺伝する」ので、その子たちも他の子たちより「生存や繁殖に有利」になり、他の子より多くの孫を残すことになる。その繰り返しで、この形質は生物の集団あるいは種全体に広がっていき、ついにはすべての個体がこの形質をもつようになる。これが自然選択による進化である。

この自然選択を食料運搬仮説に当てはめたら、どうなるだろうか。直立二足歩行ができるようになった個体は、手でもものを持つことができる。そういうオスが地上を歩いて食物を集め、それをメスや子のところに運んでくる。そのメスや子は食物を食べられるので、「生存や繁殖に有利」になるだろう。しかしこれだけでは、直立二足歩行が進化する条件としては足りないのである。

(更科功『絶滅の人類史』(NHK出版新書)より)

注1・ボノボ……チンパンジーの一種で、ピグミー・チンパンジーとも称する。一般的なチンパンジーに比べて小型。

注2・疎林……樹木がまばらに生えている林。

注3・捕食……生物が他の生物をとらえて食うこと。

注4・ヒヒ……サル目オナガザル科のうち、ヒヒ属・マンドリル属・ゲラダヒヒ属の哺乳類の総称。鼻口部が犬のように突出し、オスは強い犬歯をもつ。

注5・犬歯の話……初期の人類の犬歯が、オス同士で争うことがなくなるにつれて小さくなっていったという説。

問一

1

4

1に入ることをばの組み合わせとして適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、1もつとも

2そして

3でも

4さて

イ、1しかし

2また

3すると

4そうしたら

ウ、1ただし

2あるいは

3だが

4ところで

エ、1それに

2けれども

3なぜなら

4つまり

問二 A・Bに入る小見出しとして適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A ア、人類が二足歩行したとき

イ、生き延びるための疎林

ウ、人類は森林から追い出された

エ、動物が草原や疎林に移住するわけ

B ア、仮説はスジが通っているだけではダメ

イ、正しい仮説の証拠ってナンダロウ

ウ、仮説によってナニが導かれるか

エ、「食料運搬仮説」はホントウに正しいの？

問三 $\sim\sim$ 線部X・Zの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

X「スジが通っている」

ア、文句のつけようがない

イ、他より優^{すぐ}れている

ウ、的を射ている

エ、道理に合っている

Z「ひっくりかえって」

ア、書き並べて

イ、一つにまとめて

ウ、照らし合わせて

エ、再考して

問四

Y

に入れることばとして適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、解説 イ、選択 ウ、実証 エ、統一

問五

本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直後にくる五字をぬき出しなさい。

しかし、森林が減つてくると、そうはいかない。

問六

①

に入れることばとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、果実は、永続的に動物の子孫を残すために発達したものだ
- 2、果実は、安全な行動範囲を動物に教えるために発達したものだ
- 3、果実は、栄養の吸収をうながすために発達したものだ
- 4、果実は、動物に種子を運んでもらうために発達したものだ

問七

——線部②「初期の人類は、森林も活動範囲に入っていたようだが、基本的には疎林に住み、草原にも足を延ばしていた」とあるが、その理由として適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、食料が少なく不便であるが、人類にとっては住みやすい場所であったから。
- 2、気候の変化により、今まで生活の拠点としていた森林が減少したから。
- 3、山の食料が少なくなり、他の個体との生存競争に負けて森林を追われたから。
- 4、突然危険が迫ってきて、それを回避できる場所であると考えられていたから。

問八 — 線部③「そこにいられなくなった理由」とあるが、「クマ」の例ではどのような理由が考えられるか。「くから」に続くように文中から二十五字以内で探し、初めと終わりの五字をぬき出しなさい。

問九 — 線部④「初期の人類」とあるが、これを表す他の表現をこれより後の文中から探し、十字以内でぬき出しなさい。

問十 — 線部⑤「この違いは、どこから来たのだろうか」とあるが、「違い」が「どこから来た」かを「人類」ということばを用いて四十字以内で答えなさい。

問十一 — ……線で囲まれた段落内の1〜4を正しい順序に並べ替え、番号で答えなさい。

問十二 — 線部⑥「ベストの選択肢ということになる」とあるが、なぜそう言えるのか。その理由となるように、次の文の□にあてはまるように三十字以内で答えなさい。

複数の仮説から一つを選ぶために□だから。

問十三 — 線部⑦「間接的な情報なら、ないことはない。それが、犬歯が小さくなっていることだ」とあるが、交通機関の例における「間接的な情報」は何か。文中から探し、十字でぬき出しなさい。

問十四 — 線部⑧「これ」が指している部分を文中から探し、初めと終わりの五字をぬき出しなさい。

問十五

本文の内容と合っているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、人類が直立二足歩行を進化させた理由の仮説はあるが、それを証拠づける他の間接的情報がないので、認められていない。
- 2、生物の自然選択による進化には二つの条件が必要であり、どちらかが欠けてもすべての個体がこの形質を持つことはできない。
- 3、現在、草原や疎林に住む霊長類は、葉や昆虫や小動物を食べる雑食性だが、果実をほとんど食べない種類もいる。
- 4、ヒヒと初期人類の歩行に違いが生じた原因は、家族関係の作り方ではなく、食物や住む場所などの生活環境にある。

国語 解答用紙

| |
|------|
| 受験番号 |
| |
| 氏名 |
| |

| |
|----|
| 得点 |
| |

| | | |
|----|-----|---|
| 問一 | ⑤ | ① |
| | | |
| 問二 | 部首 | |
| | 部首名 | |
| 問三 | | ② |
| | | |
| 問四 | 右 | |
| | 左 | |
| 問五 | | ③ |
| | | |
| 問六 | | ④ |
| | | |

| | |
|----|---|
| 問一 | |
| | |
| 問二 | A |
| | |
| 問三 | X |
| | Y |
| 問四 | |
| | |
| 問五 | |
| | |
| 問六 | |
| | |
| 問七 | |
| | |
| 問八 | |
| | |
| 問九 | |
| | |
| 問十 | |
| | |

| | |
|-----|----|
| 問一 | |
| | 問二 |
| 問二 | A |
| | B |
| 問三 | X |
| | Z |
| 問四 | |
| | |
| 問五 | |
| | 問六 |
| 問六 | |
| | |
| 問七 | |
| | |
| 問八 | |
| | |
| 問九 | |
| | |
| 問十 | |
| | |
| 問十一 | |
| | |
| 問十二 | ↓ |
| | ↓ |
| 問十三 | |
| | |
| 問十四 | |
| | |
| 問十五 | |
| | |